

スクランブル

広島県 広島県商工会連合会 新生商工会のキーワードは“まめ”! 会員や県民のために“まめ”にがんばります

商工会法施行45周年の節目を“新生商工会元年”と位置づけ、広島県商工会連合会（加島英俊会長）はより地域に必要とされる商工会実現に挑戦している。その合い言葉は「まめ」。「意識」「組織」「事業」「財政」の改革を柱に現在、会

員への貢献に軸足を置いた各種記念事業を行っている。会員一人ひとりのニーズに応じたきめ細かいサービスを行うための全会員さん巡回運動などで、“まめ”さをいかに発揮。豆が大地に強く根を張るよう、しっかりと地域に根ざした交流事業を実施している。一方で、地元のプロスポーツチーム（広島カープとサンフレッチェ広島）と連携した地域PR企画など、豆が空に伸びていくように、広く県民に夢を与える事業も展開。「会員満足度を高め、より地域に必要とされる新生商工会になるため、私たちは“まめ”にやります！」

注) まめ：真面目・達者・誠実・役立つ



香川県 さぬき市商工会 中国から研修生17人 企業で知識、技術習得を学ぶ

さぬき市商工会（十河孝男会長）は、商工会館本所研修室で、市内の企業で働きながら知識や技術の習得を目指す中国人研修生の研修開講式を開いた。



参加した研修生は20～35歳の男女17人。全員が中国青島市出身で、4月1日に来日している。日本の生活の基本ルールを学んだ後、市内の水産会社や鉄工所など民間企業8社に派遣され、約1年間で技術などを習得する予定だ。

開講式では、十河会長が「一日も早く日本文化に親しみ、技術が習得できることを願っています」と激励のあいさつ。これに対し、研修生代表の李焯さんが「このチャンスを生かして成果を取めたい」と決意を述べた。

同商工会の研修生受け入れ事業は1999年にスタートし、これまでに約60人が参加している。

沖縄県 嘉手納町商工会女性部 「いもっち」で交通安全 新1年生にお守りプレゼント

嘉手納町商工会女性部（仲吉サダ子部長）は4月22日、屋良小学校（山城久美子校長）に入学した新1年生に交通安全のお守りをプレゼントした。

このお守りは、ストラップに野國總管伝来400年祭のかわいいキャラクター「いもっち」をあしらひ、「交通安全」の願いが込められたもので、1年生42人に贈られた。

贈呈式に先立って嘉手納署による交通指導が行われ、児童たちは交通安全について熱心に学んだ。式には、「いもっち」の着ぐるみも登場。児童らを大いに喜ばせた。

式で仲吉部長は「入学おめでとう。交通ルールを守って、事故に遭わないようにしてください」とあいさつした。



「いもっち」の交通安全お守り

茨城県 岩瀬町商工会青年部 桜をテーマに新商品 合併後の活性化の目玉づくりに

岩瀬町の商工会に所属する飲食店や宝石店などが、「桜」をテーマにした新しい料理や商品を企画。4月10日には、商工会館前で開いた夜桜イベントで、桜をテーマにした料理を販売した。同町商工会青年部（渡辺雄司部長）の若手経営者が中心となって2年前から地域振興の企画を練り始め、PRなどについては商工会も後押しした。同青年部は「岩瀬になじみ深い桜を題材にした町まちづくりをし、商工業の活性化にもつなげたい」と意気込んでいる。

今回、新しい料理や商品を考案したのは、そば・うどん店「ほさか」の保坂順一さん、中華料理店「彩葉」の中野浩徳さん、和菓子店「大黒屋」の大山茂さん、ジュエリー店「マノ」の田中一成さんの4人。

保坂さんは桜うどんや桜ゼリーなど、中野さんは桜の杏仁豆腐と桜のつけめん、大山さんは桜大福を考案。それぞれ桜の葉の塩漬けを混ぜて香りをつけたり、桜の花びらをスープ

に入れたりして風味を楽しむようさまざまな工夫を凝らした。田中さんは、桜の模様を掘り込んだオリジナルの結婚指輪を工夫した。

同町は10月に合併して「桜川市」になることが決まっています。町内には新市名の由来となる桜川の源流がある。世阿弥の謡曲「桜川」の発祥地でもあり、能の継承や桜公園の保全維持に力を入れている。商工会青年部では、「今までは観光やイベントで人を呼んでも、目玉となる食べ物や売るのがなかった」と、新商品の研究を進めてきたもの。

渡辺部長らは「人との出会いをイメージできる桜のよさや雰囲気味わってほしい」とアピール。「ほかの店にも特産品の輪が広がることを期待している。皆で協力し合って振興につなげたい」と意気込んでいた。



群馬県 板倉町商工会 遊水地が絵葉書に 町のシンボルの四季の魅力を

板倉町商工会と板倉町が、観光絵はがき「いたくらの風景」の第2弾「渡良瀬遊水地Ⅰ」「渡良瀬遊水地Ⅱ」を作製した。町のシンボルとなっている渡良瀬遊水地にポイントを絞り、遊水地の四季や風物詩、イベントなど魅力ある表情をピックアップした。

昨年、「揚舟ツアー」の舞台となっている谷田川の自然や、四季折々の姿を集めた「谷田川Ⅰ」「谷田川Ⅱ」を発売。好評により、今回第2弾を企画した。1組5枚入り300円。町商工会や町役場、農産物直売所「季楽里」などで販

売している。

Ⅰは「早春」「萌だす」「初夏」「道」「雪化粧」、Ⅱは「トライアスロン」「花火大会」「セーリング大会」「ヨシ刈り」「ヨシ焼き」といった遊水地の四季折々の姿や表情、代表的なイベントや風物詩、人とのかわりなどを盛り込んだ。

作品は町内2つの写真愛好家グループに依頼し、「1年かけて撮影された約200点から厳選しました」と担当者はできばえを語っている。



滋賀県 甲良町商工会女性部 地産地消をモットーに 地元野菜の総菜店オープン

甲良町商工会女性部有志のグループ「まめな生活自然派女性ネット」（大橋登紀子代表）は、同町在士で町の大豆で作った豆腐やおからドーナツなどを販売する総菜店を開設した。



同部では、地産地消を合い言葉に特産品開発を始め、1年ほど前から同町産の大豆から豆腐を手作りしている。豆腐やドーナツ、クッキーなど、種類も増えたことから、店舗での販売をスタートすることとした。

商品はすべて町内の農家が作った野菜を材料とし、白和えやおからコロッケなど10種類あまりの総菜とおやつを並べている。手づくりの味が人気を呼び、町外からの来客も増えているという。営業は水、金の週2日、午後3時～午後6時。

同グループでは、「これを機会に地元の食べ物のよさを知ってほしい。町外にも甲良の作物のよさをPRしたい」と話している。

長崎県 東彼杵町商工会女性部 新茶の香りがいっぱい 山海の幸集めた初夏の風物詩

東彼杵町商工会主催の「そのぎ茶市」が5月13日～15日、町役場近くの商店街一帯で開かれ、新茶を求める買物客でにぎわった。



同町は県内随一のお茶の産地として名高い。「そのぎ茶市」は江戸中期ごろに始まったと伝えられ、初夏の風物詩となっている。会場周辺は、鯨肉など海産物の集散地として古くからにぎわい、県内各地から船で運ばれた品物との物々交換が盛んだった。

14～15日の午後1時から鯨肉の特売会が開かれ、手いり茶の実演や焼き酒大会など各種のイベントが催された。

今年は約90の露店が並び、「香り高い新茶ですよ」などと威勢のいい掛け声が流れる中、そのぎ茶の新茶をはじめ、海産物や焼き物などが市価より安く販売された。

彼杵神社では、そのぎ茶振興協議会（会長：紙谷町長）主催の献茶会が開かれ、町長や茶生産農家、茶商の代表が新茶を入れたつばを供え、今年のできばえを神前に報告。茶業振興に尽くした先人をしのび、今後の消費拡大を祈願する神事を行った。

山形県 東根市商工会青年部 「さくらんぼ種飛ばしキット」商品化 熱い競技がいつでも・どこでも

東根市商工会青年部（齊藤幸信部長）は、「いつでも・どこでもさくらんぼの種飛ばし大会キット」を商品化した。

同市は「佐藤錦」の発祥地で、さくらんぼの生産量は日本一。さくらんぼにこだわった同市のまちづくりを支援するため、青年部は昨年度県商工会連合会の若手後援者育成事業の採択を受け、新たな特産品開発を研究していた。

はじめはさくらんぼを素材にした菓子類やアクセサリーなどを考案したが、おもしろさやユニークさを打ち出し、市のPRにも結びつくものをと、人気イベントの「種飛ばし大会」に注目した。キットには、スタートライン、競技開始の笛、計測用のメジャー、最長飛距離などの目印にするポール、飛ばした種を片付けるほうきとちり取りなどの競技用グッズが入っていて、「いつでも・どこでも」手軽に楽しめる内容とな

っている。

また、市などが作った公式ルールブック、さくらんぼ・クッキーメダル、市内で6

月に開かれる「さくらんぼ種飛ばし大会ジャパングランプリ2005」の招待状も入っている。

パッケージも、さくらんぼ1キロ詰め用の箱とまったく同じ大きさ、体裁で、県内の観光マップも載せているというこだわりだ。

箱詰めの作業は、知的障害者授産施設「こすすの家」の利用者が担当した。価格は1セット1,500円。発売は限定1,000セット。

同青年部では、「一家に1セットいかがですか。遊んでいるうちに必ず熱くなりますよ」と魅力をアピールしている。問い合わせは東根市商工会まで。

